

# 伝承 あすり、

第十六号

## 伝承芸能 と古代の道

(公財)古都飛鳥保存財団  
常務理事

小川陽一

あれから二年の歳月が経ちました。あれとは、「伝承あすか」第十二号でも報告された東京国立博物館での「キトラ古墳壁画」の特別公開のことです。村主催の関連イベント「飛鳥—キトラ 2016」が公開期間中に催され、伝承芸能保存会の皆様のご協力により、明日香村の伝承芸能の魅力が上野の「文化の森」から広く全国に発信されました。その二〇一六年が到来し、明日香村は村政六十周年の節目を迎えることとなりました。

去る四月四日には、当地への

今上天皇皇  
后陛下の  
行幸啓を賜  
り、高松塚  
古墳と高松  
塚壁画館、  
歴史公園館  
などをご覧

いただくという荣誉にも浴することができました。

今年秋には、国営飛鳥歴史公園のキトラ古墳周辺地区がいよいよ開園の運びとなります。体験的歴史学習がテーマとされ、「キトラ古墳壁画体験館 四神の館」がその中核施設となります。また平田阿部山線の反対側には「四神の広場」が整備され、檜前寺跡の方向へゆるやかに園路がつながっていきます。開園イベントなどでは、保存会の皆様により伝承芸能がご披露される予定と側聞しています。

キトラ古墳周辺地区の開園により、歴史公園の飛鳥区域は、位置的にも重要な五つの地区で構成されることとなります。飛鳥探訪、「歴史」や「農」の体験、伝承芸能の保存・創造また「文化の里」飛鳥からの情

報発信等の拠点として、村内外の多くの方々により、歴史公園の各地区が親しまれていくことを願う次第です。国営飛鳥・平城宮跡歴史公園としての拡大も予定されており、平城宮跡区域の一期開園も近づいています。

二〇一六年というこの節目を機会に、飛鳥周辺の古代の道などをわかりやすく現地中表示してはどうでしょうか。

今風にいえば「古道の見える化」です。土地勘のない方々にも、主な古道の名称・ルート、現在地や周遊コースとの関係などが理解できるようにしたいものです。

史跡や古道を組み込んだ周遊コースには「愛称」がほしいものです。高松塚とキトラの両古墳を結ぶコースは、「四神の道」でしょうか。それと接続する形で中尾山古墳と天武・持統天皇陵と牽牛子塚古墳という「八角墳の道」も考えられます。飛鳥寺の西側から、飛鳥京跡苑池、石舞台古墳、祝戸周辺稲淵の棚田を経て、南淵請安の墓や「八幡だぶ」に至る飛鳥

川沿いのコースは、「雨乞いと蹴鞠の道」というのがよいかもしれませぬ。保存会の皆様のご推奨が得られれば、「雨乞い」や「蹴鞠」のマーク、方向や距離の表示などを各要素の路面等に入れていただくのもよさそうです。

古代の道は遠く中国や朝鮮半島とつながる道でもあり、飛鳥の地にさまざまな文化が伝来し、他の地へと伝播していった道、伝承芸能などのルーツと変遷を辿ることができる道でも



あるはずです。日本遺産に認定された飛鳥のストーリーは、「日本国創生のとき、飛鳥を翔(かけ)た女性たち」でした。中でも、吉野への行幸を重ねられた持統天皇や斉明天皇に見倣い、飛鳥く芋(妹)峠く吉野までのコースを歩き(翔け)抜いた女性の方々には、「完走」記念の手向けとして、「乾燥(干し)イモ」を贈呈したいところです。

駄(洒落)文となってしまうましたが、伝承芸能保存会の皆様の今後のより一層のご活躍をお祈り申し上げます。

# 八雲琴

平成二十七年度聖徳中学校総合学習・明日香学で八雲琴を勉強した、三年生五名の感想文です。(昨年十二月提出された分)

- 河本優希
- 森口桜子
- 守安明日香
- 和所優奈
- 西美穂

拝啓  
早いもので師走に入り、今年も締めくくりの時がやってきました。

私達五人は、先生方にご指導いただき、なかなか上達しなかった最初の頃に比べると、見違えるほど上手に弾くことが出来るようになりました。

特に楽しく弾くことが出来た曲は「天の数歌」と「飛鳥川」と「菅搔六段曲」です。

「天の数歌」では、どんどん速くなっていったのを、皆で合わせるのが難しく、少し戸惑う部分もありました。が、最後のあたりでは、皆ときれいに合わせることが出来ました。

「飛鳥川」では、数歌と同じくテンポの速い部分があり、しかもゆっくりと出来た時の楽しさは、もっと大きかったです。

最後の「菅搔六段曲」は一番最初に教わった曲でした。歌もなくて覚えやすかったです。

二年間教えていただいた、たくさんさんの事を学べました。明日香に伝わる伝統的な八雲琴を学ぶことができて、本当に良かったと思っています。

私達の中にはまだこれから



「燈花会子ども能舞台」平成 27 年 8 月 11 日 於奈良春日野国際フォーラム薨

先生方に教えていただく人もいます。これから高校へ行って明日香に伝わる八雲琴の伝統を紹介する機会があれば、広めていきたいと思えます。二年間ご指導下さり本当にありがとうございました。時節柄くれぐれもご自愛ください。

敬具

## 八雲琴とともに

野村昌代

八雲琴を習っている明日香小学校の児童から、中央公民館での八雲教室を紹介してもらい、稽古を始めてから早や四年目を迎えています

「さくら さくら」

「月花・月の眺め」

「菅搔六段曲」

「奈良の都」「明日香風」

「飛鳥川」「神依板」

「須賀の曲」「天の数歌」

「千歳」「春の調」「龍女」

「平城山」「炎の踊り」

「春の光」「初音曲」「相生曲」

「雪月花」などの曲を脇田先生、浦谷先生、西川先生から教えていただき、二絃の糸から紡ぎ出される音色の深みと拡がりを味わい演奏しています。

しかし、昨年から自分の稽古だけでなく、後継者育成を目的として児童や生徒への指導に携わることになり、気持ちを引き締め八雲琴に取り組んでいます。

昨年、児童・生徒が活躍した二つの演奏会を紹介します。



「奈良古典芸能フェスティバル」  
平成28年1月23日 於興福寺会館

まず一つ目は、八月十一日に  
行われた奈良春日野国際  
フォーラム薨での「燈花会子ど  
も能舞台」についてです。  
控室や舞台でのリハーサルを  
終えいよいよ本番。杉藤さんと  
私が初体験で担当した揚げ幕  
をくぐり、三の松、二の松、一  
の松を右手に橋懸かりを通り  
ピンと張り詰めた空気の能舞  
台へ子どもたちの入場。「菅搔  
六段曲」「飛鳥川」を演奏。リ  
ハーサルでは合いにくかった本手

と替手の音もピッタリ合い、素  
晴らしい演奏。小学校二年生  
から中学校三年生の十四人の  
演奏は、表現力豊かに会場に  
響きわたりました。  
稀にしか経験できない能の檜  
舞台での演奏を終えた子ども  
たちの顔には八雲琴を通して  
自己表現を達成した喜びに満  
ちた様子がみられました。  
次は、十月二十九日に行わ  
れた聖徳中学校文化祭につい  
てです。

中学校の「明日香学」では、  
三年生五人、二年生三人が年  
間四十二時間、八雲琴を中央  
公民館で学び、そのまとめとし  
て、文化祭で発表しています。  
生徒たちは授業としての練習  
だけでなく、土曜日の練習に  
も積極的に参加し、技能も上  
達しています。  
練習の積み重ねの成果があ  
り、「飛鳥川」では、強弱をつけ  
た表現により明日香川の水音  
や河鹿の鳴き声を思い描くこ  
とができました。とても落ち着  
いた堂々とした演奏を聴かせ  
てくれました。  
子どもへの指導を通して、八  
雲琴を伝えていくことの大切さ、

難しさ、喜び、楽しさを感じる  
とともに、自分自身の技能を  
磨いていくことの必要性を強く  
感じています。古代万葉の心と  
して八雲琴の音色を表現でき  
るよう稽古に励んでいます。

## 覚えの早い子ども たちに感動

中島信江

私たちは毎週八雲琴を練習  
していますが、その様子をお話  
したいと思います。

八雲琴は二絃琴で、飛鳥寺  
の故山本震琴先生が守ってこら  
れたものであり、私たちはその  
伝統を受け継いでいこうと、明  
日香の響保存会として、練習  
に励んでいます。

練習は毎週土曜日、明日香  
村中央公民館で行っています。  
子どもたちは九時から十時  
まで練習します。小学二年生  
から中学三年生まで、十六人  
が練習に励んでいます。  
琴を弾くときは爪と転管とい  
うものを指につけるのですが、  
それを指につけると、くるくる  
回ってしまうぐらい小さい子も  
練習しています。子どもたちは



なら100伝統芸能こども文化祭

主催：奈良こども伝統文化協会  
(一社)奈良市組合財団 なら100年会館

「なら100伝統芸能こども文化祭」平成28年2月20日 於：100年会館中ホール

覚えるのが早く、集中力もあ  
り、次々に新しい曲を練習し



「こども達と和のつどい」 平成二十八年一月十七日 於：イオンモール榎原

ていきます。学年が上がるにつれて、本手（主旋律）と替手（副旋律）を上手に弾きこなし、深みのある演奏を聞かせてくれます。

また、子どもたちは歌声も明るく伸びやかで、琴の演奏に華やかさが加わり、美しい演奏を上手に弾きこなししてくれます。

大人は十時三十分から十一時三十分まで七人で練習しています。先生方に演奏の仕方を丁寧に教えていただき練習しています。時には八雲琴の歴史を教えていただいたり、時には日常生活のおもしろい話を聞かせていただいたりして楽しく練習させてもらっています。

八雲琴の発表の場としましては、四月から十一月までは（七月と八月休み）毎月第三土曜日の午後に万葉文化館で定例公演をさせてもらったり、依頼があれば訪問演奏をしています。

初心者の方も個別に練習できますので、八雲琴を始めてみようと思われる方は、中央公民館を是非覗いてみてください。

# 万葉朗唱

## 古事記朗唱大会

に出演して

河合幸子

奈良県主催の第三回古事記朗唱大会が、平成二十八年一月二十三日（土）奈良春日野国際フォーラム豊く元交々く能楽ホールで開催されました。

明日香万葉朗唱から八名が出演しました。今年は申し込まれた方が多くて、抽選で当たり、幸い参加できました。

まず最初は奈良県知事の朗唱から始まり、県内の市町村長の皆様の発表、十五番目に私達の明日香村長が朗唱されました。シーンと静かなホールの隅々まで声が響き渡りました。「朗唱箇所・下巻・即位と氏姓の正定」は、本当にすばらしい朗唱でした。

十七番目には、犬養記念館長の岡本三千代先生「朗唱箇所・中巻・酒楽の歌」です。初めに音楽が流れ、歌に入り、二分の持



ち時間を有効に使われていて、演出の大切さを教えて頂きました。

参加者朗唱の八番目は、私達の明日香万葉朗唱の出番です。「朗唱箇所・上巻」短歌ばかり五首を引き出し、犬養節で歌いました。司会者の方から「気持ち良く犬養節で、歌われていましたね」と言われ、ちょっと嬉しくなりました。

古事記朗唱は、「なら記紀万葉プロジェクト」に協力しているほんの一部分です。私達に一番大切なことは、どんなことが有っても、途切れること無く、明日香万葉朗唱を保存していかねばならないのです。それが私達の努めと思っています。三月の万葉朗唱講座には、二十四名が受講して頂きましたが、定例公演で歌うとなると後



「古事記朗唱」奈良春日野国際フォーラム 豊～I.RA.KA～  
於：能楽ホール 平成28年1月23日

に引いてしまわれます。万葉朗唱は万葉集を声に出して歌う事を目標にしています。

県立万葉文化館での定例公演でも、現在は平均年齢七十九歳で、老体におちうって頑張っています。

若い方一步踏み出していただけませんか。いつの日か若い歌声を聞けるようにと願っています。

### 明日香村伝承芸能保存会 明日香万葉朗唱講座

講師 岡本三千代先生

万葉うたがたり主宰  
犬養万葉記念館々長

月一回開催・年間十一回

八月は休講

場所 明日香村中央公民館

二階研修室①

日時 毎月・第四木曜

午後一時～二時三十分

会費 当日会費五百円

(年会費・三千円)

当日の万葉歌を犬養節朗唱  
年一回 県外研修旅行実施

## たまゆら

明日香村文化協会々誌(創立二十周年記念号)一九九八年より脇本氏(明日香村文化協会名誉会員)の承諾を得て、掲載致します。

### 「明日香で萬葉の歌を朗唱する集い」を開催して

脇本澄子

梅の花咲き極む三月十四日春の気配の漂うここ石舞台公園に於いて、公園緑地管理財団の夢プラン'97の事業に参画させて頂く。文化協会は立ち上がった。「明日香で万葉の歌を朗唱する集い」。初めての試みの事。故に、いささかの不安がある。しかし会長始め浦谷太郎氏の御指導よろしく歩み始めた。日々萬葉朗唱に励む。平成十年の新年の互禮会に発表させていただいた。未完成ではあるが、各人の熱意が表現され、これなら出来るかと確信を持つ。有明の月が大きく赤々と西の空にある。東の空は紫色に暗く、徐々に茜色に広がって行く。広場での行事ゆえ、天候が一番心配であった。「大丈夫、今日は天気だ！」胸躍動する。公園の中心部に舞台が

セットされている。定刻十時。開会の幕が上がった。村長様始め各種御来賓の方々が多数ご来席くだされ思わぬ盛大さである。

天におはします神々様よ、地に眠られておはすご先祖様。只今より明日香を守っております我々が、貴人様方のお作り遊ばした御歌を声高らかに朗唱させて頂きます。どうぞよく、お聞き下さいませ。古代衣装を身につけし現代万葉人は堂々と舞台上に立った。声ある限り天にとどけと朗唱する。琴あり。踊りあり。コーラスあり。詩吟あり。アトラクションとして南無天踊りで太鼓の音公園のすみずみまでに響き渡る。特別出演として岡本三千代さんの萬葉歌がたりで、会に一段と花を添えて下さった。飛び入りコーナーにも多数出演して下さい、会はいやが上にも盛り上がり、山菜おにぎりに、明日香の味を賞味して頂く。道行く観光客も足をとどめしばし見物して下さる。春の空はうららかに晴れ、南洲山より吹く風もさわやかにして、明日香川は清くさらさらと流れている……

後略

# 南無天踊り

奈良県立高取国際高等学校

第五回

## 「伝承芸能鑑賞会」

明日香村伝承芸能保存会々々長

岡崎義男

明日香村伝承芸能保存会は平成二十四年度より「芸能鑑賞会」と銘打って、「八雲琴」「南無天踊り」の二団体が公演させて頂いています。

高取高校の生徒さんは本当に落ち着いて良く鑑賞して下さいるので、やり甲斐があります。また、一学年全員が集える舞台付きホールが、整った環境です。昨年度から伝承芸能を、より身近に感じて頂くために楽器の体験活動を取り入れています。

平成二十八年一月二十一日に実施致しました「八雲琴」と「南無天踊り」の生徒さんの鑑賞終了後のレポートを掲載します。

### 生徒代表者レポート

今日、明日香に伝わる伝承芸能を見て、昔はこういうふうに通っていたり、演奏していたりしたのかと思いました。琴で演奏されたのが、万葉集の曲だと紹介された時、約十四世紀前の曲がこのステージで再現されていると考えると、とても興味がありました。

八雲琴の音色はきれいで国際ホールに響きわたっていました。それに、長い演奏なのに、最後まで弾ききるのは大変だとおもいました。それを弾ききる方々の努力も伝わって来ました。

南無天踊りは衣装が印象的でした。太鼓をたたいている人の髪も白色になったり黒色になったり、飛鳥時代にも同じ格好の人がいたのかなあと興味深かったです。西暦六四二年異常気象で何日もひでりが続き、人々が苦しんだから、人々は雨を求めて、歌っていることが、私たちでもわかりました。縄で作られた竜が登場し

たり、太鼓をたたいたり、今と同じように、昔もこのようなパフォーマンスをしていたんだと感じました。この踊りも再現するのはとても難しかったと思うし、たくさんの方々の努力が必要だということが伝わってきました。また、楽器体験の前の、笛の説明をして下さった方が「グローバル化

社会で日本の伝統芸能をアピールしてほしい。この笛はスーツケースに入れておける大きさで海外の人も興味をもってくれるだろう。」とおっしゃっていて、その通りと思いました。実際、留学生オーストラリア人のリース君も、フランス人のアクスさんも興味を持っていた様子なので、こういった日本に受け



継がれたものを利用して、海外とつながれたらいいなと思いました。

今日は代表で挨拶をさせて頂きましたが、緊張して上手に話せなかったのを、私も笑みがこぼれるくらい、笑顔でお礼の挨拶を聞いて下さいました。地域の人たちは優しい方たちばかりだということも知りました。いい経験となりました。

# 私にとつての

## 南無天踊り

辻本桂子

今から三十年くらい前の事です。ずいぶん前の事なので、記憶が定かではありませんが、一度途絶えていた南無天踊りを復活させようと、発起人の方を中心に、踊りの先生や歌の先生、笛や太鼓の先生、

大字の長老の方々など、様々な方の手によって復活させ、新舞踊や婦人会本部の方々も実際に踊って完成させてくださいました。

それから、大字の婦人会に要請があり、全員で踊りを習うことになったのが、私にとつての南無天踊りの始まりです。

大字の集会所で、まず雨乞いの歴史を教えていただきました。皇極天皇が重祚して斉明天皇となられたことなど、知らないことばかりでした。今の時代では雨水だけに頼ることは無く、水路から田に水を入れるので、早魃で米が実らないという話は聞かなくなりましたが、



平成 26 年 4 月 21 日 於：東京国立博物館表慶館前広場

昔は少し米の出来が悪いどころか、まったく実らない事があったと聞き、当時の人々の雨乞いにかける思いの強さが推し量られました。

それから踊りの練習が始まったのですが、これが長くて難しい！今は、テンポもアップして二十分くらいで終わらせていますが、当時は通しで四十五分かかっていました。第一部は映

像と音楽で、第二部が雨を願う農民の踊り、第三部の祈りと喜びの踊り、第四部の雨乞いと喜びの踊り、第五部では、感謝からの歓喜の踊りで、最後は全員で喜びを表して終わるといふ、一連の流れがありました。少しずつ切り分けて、順番に練習をし、一通り習い終えて、できたような気がしたのも束の間、細部まで指摘をいただいたので部分修正が始まりました。

正が上がり、手の上げ下げや足の動きなど、本当に一挙手一投足にまで気を回さなければなりません。やっと完成と言えようになつて、すぐに奈良シルクロード博に出演することが決まり、練習にも熱が入り、いよいよ本番間近となつたときです。初期から踊りをささえてくれた方が大怪我をされ、出演出来なくなつて

しまいました。急遽その方のパートを私がする事になり一回の練習で本番に挑みましたが、やはり足元がうまく動きませんでした。翌年、東京ドームのイベントに奈良県代表として出演し、一九九〇年の夏、花博にも出演が決まり、炎天下での披露となりました。

その後も、奈良文化会館・橿原文化会館・高田のさざんかホールなど、最近では東京国立博物館でも披露しました。村内では石舞台や棚田、明日香村中央公民館など、ありがたいことにたくさんの方からお声を頂戴し、様々な場所での披露する機会を得ることができました。現在万葉文化館では春と秋に定例公演で披露しています。これだけ長きに渡って踊ってきましたが、いまだに「完璧でした」と胸を張れることは無く、これからもまだまだ練習に励み、後世に伝えるための努力をしたいと思います。どのパートについても踊れる様に、どの楽器や笛でも大丈夫と言えるように、全員で頑張っていきたいと思つています。

# 随想

## 横笛で人生

### 「ルネサンス」

岡崎義男

私の初舞台は、大和高田市の「さざんかホール」です。横笛の特訓に特訓を重ねやっこの思いで合格しての出場でした。

横笛は繊細な楽器で、お腹がいっぱいの時はうまく鳴りません。すかし加減の方が良いのです。昼食に、巻き寿司二本なんか配られた時には、食べるか食べるまいか、心の葛藤は大変なものです。

笛が上手になりたい一心で、「井上真実」篠笛教室に入りました。ほとんどが女性でびっくり仰天、しかも、段違いに上手です。耐えて耐えて通っていませんが、つらいところです。教室では、笛を持つての遠足。ホールを借り切った発表会、先生のコンサート等、人との輪が広がります。今、南無天踊りの四人で「グループ神奈備」を組み、老人ホームや小会合に出かけ



施設でのクリスマス会 平成 27年 12月 7日

ています。ホームには大小いろいろな形態があります。自分も近い将来お世話になるので、心を込めて演奏しています。

昨年のクリスマス、あるホームで「聖この夜」をみんなで歌いました。中に英語で歌う方がおられ、話を聞きますと、小学生のころ日曜学校で習ったのを今も覚えていいるとのことでした。

また、他のホームで、「平城山」をみんなで歌ったところ、ある方が、この歌は恋愛の苦しいことを歌った歌だと話して下さいました。帰って調べますと、そのとおりでした。人生の先輩達と

会話をしていますと、教えられることがたくさんあります。

ある町の老人会の研修会に招かれ、「趣味に生きる」という内容で、明日香村伝承芸能を紹介したり、自分たちの日頃の過ごし方をスライドなどで紹介し、またピアノと笛の伴奏で歌を歌ってもらいました。あとで、知り合いの方が、君らはうちの町では有名人や、一日に数回ケーブルテレビで放映されていると知らせて下さいましたもう少し事前の準備を充分しておけばよかったと後悔しましたが後の祭りです。

昨年の夏、名古屋市栄町にある「宗次ホール」で「古と今を結ぶ」花鳥風月コンサートに招待をうけ出演しました。

箏・鼓・篠笛の和の音色のなかで、飛鳥路の昔話「亀石」や芥川龍之介作「犬と笛」が影絵を使って幻想的に表現されていました。プロフェッショナルの方の様子を間近で見ると、芸の厳しさを知りました。

今後、人生はどのように進むのかはわかりませんが、人との

出会いを大切に、「再生」をくり返しながらすごしていきたいと思っています。

## 飛鳥蹴鞠

### 活動報告 服部光晴

◇平成27年

4月4日 鞠の日

(石舞台芝生広場)

26日 れんげ祭り(飛鳥寺)

奉納蹴鞠・体験蹴鞠

5月3日 里山遊び広場・春

石舞台芝生広場

7月23日 蹴鞠研修会

「鞠作り」

10月3日 里山遊び広場・秋

石舞台芝生広場

◇平成28年

3月21日 飛鳥蹴鞠体験

石舞台芝生広場

「伝承あすか」第十六号

発行 二十八年五月

明日香村伝承芸能保存会

会長 岡崎義男

題字 「伝承あすか」勝川喜昭書

編集 明日香村伝承芸能保存会